

松原

M2 浅井

- ・ 参の市に行ってみたら、そこでの空間と店と客の関係がおもしろかった。どうなっているのだろう？というのがスタート地点なのかなと思いました。
- ・ 個人の骨董屋の思いが参の市開催のきっかけになり、自身のネットワークから運営に至ったというのは興味深い話でした。
- ・ 松原は、コミュニケーションの方法とか人とのつながりから何ができるか、人のふるまいということに興味があるような気がします。(勝手な解釈かもしれないけど)
- ・ そのネットワークの構成(どんな団体、個人がどれくらい関わっている?)や、運営に携わることで空間的にどんな演出(蔵の辻と骨董という扱う内容との関係)、お客さんと店の関係性、まで突っ込めば、より面白くなるとおもいます。(交通量も調べたって言ってたっけ?)
- ・ 卒業設計の舞台が宇宙ということですが、蔵の辻というスケールからとは違うと思います。
- ・ やる前に「なぜ？」を三回以上繰り返し、この宇宙のために自分に何ができるのか！！ぐらゐの意気込みで取り組んで下さい。また話を聞かせてくださいね。
- ・ 参考になるかもしれないのは、式瓶勉のBIOMEGA(漫画)です。空間の設定と描写がとても濃いです。

M1 竹田

全体

環境問題という大きなテーマからコンパクトシティ、中心市街地活性化ということが書かれており、松原君の広い範囲での興味のある部分やこの研究の社会的な意義がわかった。また、イベントにおける各団体の関係という着眼点も面白いと思った。

この研究をする上での対象地区の位置づけについて、中心市街地活性化の中でもどのような特色があるのかなどの研究的な意義については他の同様の研究についても知った上で定めるべき。

- ・ それぞれの団体の概要と派生、他団体との関わりについてがまとめられており、それが図として分かりやすく表現されている。
- ・ 壺の市から参の市への派生と県外への広がり、ネットワークの内容についてはもう少し説明がいるのではないかな。
- ・ ネットワークを利用しイベントを大きくするという結論は、これからの都市の中での可能性を感じた。都市を考えると今まで重要だとされてきた家族や地縁などのつながりではなく別のつながりがあるということは自分の興味とも重なった。
- ・ イベントが行われている様子についての写真や説明があると良い。

M1 中桐

■ 研究により得られたこと、その意義

中心市街地活性化の実態を把握する上での行われているイベントについて、中心市街地活性化整備事業の概要からハード面を明らかにした上で、ソフト面の実態を明らかにしている。また「菗の市」からの「参の市」までの波及構造がヒアリングにより図化されており明らかになっている。さらに現状からの展望もはっきり示されている。

■ 感想

- ・ 中心市街地活性化整備事業の概要からハード面、そこからつながるソフト面からのアプローチとしてのイベントということでイベントの位置づけが明らかにされている。
- ・ このイベントに関わる人、その人の所属、繋がり構造が図上でよく分類されており、分かりやすい
- ・ もう少し具体的な店の人と参加者の関係などについて踏み込むとより面白いことが出てくるのでは
- ・ 当日の様子、各店の空間作り、商店街での具体的にイベントとの共通部分など写真で見せて欲しかった
- ・ 骨董屋さん以外の方、例えば学生・NPOとの関わりが始まった経緯などまで踏み込むとネットワークとしての繋がりが見えてくるのでは